

令和 2年度 学校評価（保護者・同窓会・自治会）

に対する校長のコメント

アンケートのご協力、ありがとうございます。また日頃から本校の教育にご理解ご協力を頂き、感謝しております。保護者の学校評価では、ほとんどの項目と全体の平均で昨年より良い結果になっています。ご理解ありがとうございます。しかし「補習・補講」の点は教員の意識とズレがありますので、来年度に向けて検証し改善していきます。「部活動・学園祭・体育大会」は教員にとっても不満足になりました。来年度はコロナウイルス感染防止をしながら、形を変えてでも全行事をおこなう予定です。「進学で十分な成果を上げている」は組織化が遅れていますので、来年度から集中的に改革をおこなっていきます。

この1年間はコロナ禍で始まりコロナ禍で終わることになりました。4月から今までに経験をしたことのない局面が次から次へと続き、皆様には満足できる対応ができなかったことをお詫び申し上げます。4月当初から社会では「学力確保」が大きな問題となり、本校はその問題を受けて修学旅行を除いて学校行事を全て中止にしました。模試の結果を過去と比べますと各学年とも例年と同様でしたので、「学力確保」という点では目標を達成しました。しかし学校行事が全くないという状態は、協働的能力の育成という点であまりできませんでした。

現在まで生徒の規律性にご家庭のご努力そして学校の体制により、本校では感染者が出ていません。ご協力、ありがとうございます。他の学校からは「奇跡」と言われています。ただ知らないうちに感染しているという状況が一般的になっていますので、風邪の症状が出たり調子を崩した場合は通院し医師の指示に従ってください。

ICTの活用は、4月の休校中に全教員が基本的事項を研修し、その後も各学年・各部署や有志でおこなっています。また9月からICT支援員を導入し、さらなる技術向上を図っています。しかし年齢やもとの興味・資質の違いにより、授業での利用の差が生じています。その差を埋めるように推進しますが、しばらくの間、差の生じることをご理解ください。また新学習指導要領の「個別最適な学び」や反転授業のために、学習アプリの全面的な利用も検討しています。

最後に教育を取り巻く環境と本校の現状を申し上げます。新学習指導要領の実施が中学は来年度から、高校は2022年度からになります。今までの改訂は教育内容の量の増減でした。ところが今回の改訂は、「主体的で、対話的で、深い学び」方の転換です。教員にとっては全く新しい授業の展開が必要になります。今まで教員は「教える」ティーチャーでしたが、これからは「発言を促し、時間管理をしながらまとめ、目的のゴールに導く」ファシリテーターの要素が大きくなります。これは簡単な転換ではありません。教員はICTを活用しながら、ファシリテーターの能力を身につける必要があります。本校の現状は、ICTをどう活用するかを教員

で試行錯誤しています。ファシリテーターの研修はおこなっていません。来年度に全体研修として、ファシリテーターの基礎研修を計画しています。

このように新しい教員スキルを学ぶ反面、働き方改革で簡単に残業ができる状況ではなくなりました。数年前まで本校の一般的な教員は残業手当がありませんが、朝 8 時前に仕事を始め夕方 6 時過ぎまでほとんど休み無く働いています。昼食時間は 20 分取れば良い方です。さらに主に運動部の顧問は日曜祝日もほぼ 1 日活動しています。今はこの働き方が認められていません。超過勤務が月 40 時間を超えないように、教頭が目光らせています。そうしないと私立の場合、労働基準監督署からの指導が入り、指導が度重なれば学校名の公表になります。やるが増えた状況のときに働いてはいけない指示が強くなっています。両方とも政府から現場に突きつけられているのが、学校教育の現状です。